



取 扱 説 明 書

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。

注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」と「注意」に区分しています。いずれもお客様の安全や機器の保全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

記号表示について

この機器の裏側に表示されている記号や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。



⚠ 記号は、危険、警告または注意を示します。上記の場合、⚠は機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。また、⚠は注意が必要なことを示しています。

🚫 記号は、禁止行為を示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

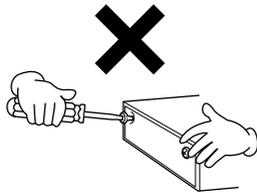
● 記号は、行為を強制したり指示したりすることを示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

*お読みになった後は、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

警告

この表示内容を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が想定されます。

🚫 この機器の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。
感電や火災、または故障などの原因になります。異常を感じた場合など、機器の点検修理は必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。



🚫 浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。また、本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。
感電や火災、または故障の原因になります。

🔌 使用中に音が出なくなったり異常なおいや煙が出た場合は、すぐに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜く。
感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。

⚠ 電源は必ず交流100Vを使用する。
エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。

🔌 手入れをするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
また、濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電のおそれがあります。

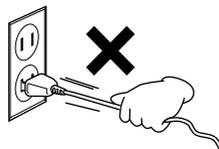
⚠ 電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。
感電やショートのおそれがあります。

注意

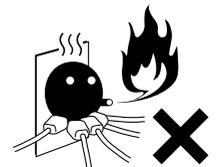
この表示内容を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定されます。

🚫 電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。
電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。

⚠ 電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。
電源コードが破損して、感電や火災が発生するおそれがあります。

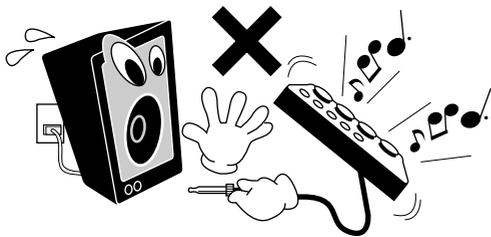


🚫 タコ足配線をしない。
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して発火したりすることがあります。



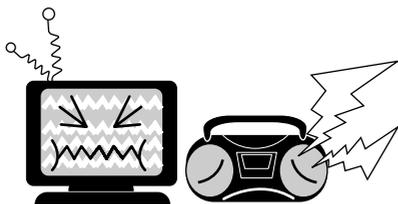
🚫 電源コードやプラグがいたんだときは使用しない。また、長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。
感電、ショート、発火などの原因になります。

- ❗ 他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行う。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にする。
感電または機器の損傷のおそれがあります。



- ⊘ 直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、またほこりや振動の多いところで使用しない。
本体のパネルが変形したり内部の部品が故障したりする原因になります。

- ⊘ テレビやラジオ、スピーカーなど他の電気製品の近くで使用しない。
デジタル回路を多用しているため、テレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。



- ⊘ 不安定な場所に置かない。
機器が転倒して故障したり、お客様がけがをしたりする原因になります。

- ❗ 本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行う。
コードをいためたり、お客様が転倒したりするおそれがあります。

- ⊘ 本体を手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは絶対に使用しない。また、本体上にビニール製品やプラスチック製品などを置かない。
本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。お手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。

- ⊘ 本体やキーボードカバーの上に乗ったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。
本体が破損する原因になります。

- ⊘ 大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。
聴覚障害の原因になります。



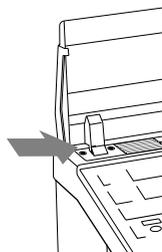
不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。また、データが破損したり失われたりした場合の保証はいたしかねますので、ご了承ください。

長時間使用しないときは、必ず電源を切りましょう。

- ⊘ エレクトーンのすき間にものを落さない。
故障や火災の原因になります。

- ⊘ キーボードカバーのすき間に手を入れない。

- ❗ 指をはさまないように注意する。
エレクトーンカバー取り付け部のすき間に指をはさむと危険ですので、ご注意ください。また、そのすき間にものを落としたりしないでください。



音楽を楽しむエチケット



これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのマークです。

楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドフォンを使用するのもひとつの方法です。お互いに心を配り、快適な生活環境を守りましょう。

はじめに

このたびは、ヤマハエレクトーンEL-17をお買い上げいただきまして、ありがとうございます。

EL-17のバラエティあふれる機能を駆使して演奏をお楽しみいただくために、この取扱説明書をご活用いただきますようお願いいたします。

また、ご一読いただいた後も、不明な点が生じた場合に備えて、本書は大切に保管いただきますようご案内申し上げます。

取扱説明書は本書のほかに「こどもガイドブック」も用意いたしました。エレクトーンが初めてのお子様でも楽しく学べる構成になっています。お子様とご一緒にお楽しみください。

EL-17の主な特長

リアルで多彩な音色

EL-17には、新AWM (Advanced Wave Memory) 音源によるリアルで美しい音色が数多く内蔵されています。それぞれの音色は、音色ボタンを押すことで簡単に呼び出すことができます。(12ページ)

豊かな表現力のタッチトーン

タッチトーン機能により、個々の楽器の持つ微妙なニュアンスや感情表現まで可能になります。(15ページ)

迫力あるリズム

パネル音色同様、AWM音源によるリアルで幅広いジャンルのリズムとメトロノームが、あなたの演奏をサポートします。(16ページ)

また、キーボードパーカッション機能により、自分で実際にドラムやラテンパーカッションの演奏が楽しめます。(18ページ)

▶ わかりにくい用語については、29ページに索引、28ページにエレクトーン用語集があります。ご参照ください。

EL-17の付属品

EL-17用椅子

取扱説明書セット

取扱説明書(本書)

こどもガイドブック

目次

各部の名称とはたらき	2
EL-17の基本操作	4
1. 演奏までの準備	4
2. デモ曲を聞きましょう	5
3. 演奏してみましよう	6
基本レジストレーション	6
ボイス	13
1. パネルで音色を選ぶ	13
トゥーロー機能について	14
2. 音群ごとに音量を設定する	14
エフェクト	15
1. タッチトーン	15
2. リバーブ	15
3. サステイン	15
リズム	16
1. リズムを使用する	16
テンポについて	17
2. キーボードパーカッションを使用する	18
資料	20
MIDIについて	20
MIDIコード一覧	23
故障かな?と思ったら	26
仕様	27
エレクトーン用語集	28
索引	29

EL-17の基本操作

ボイス

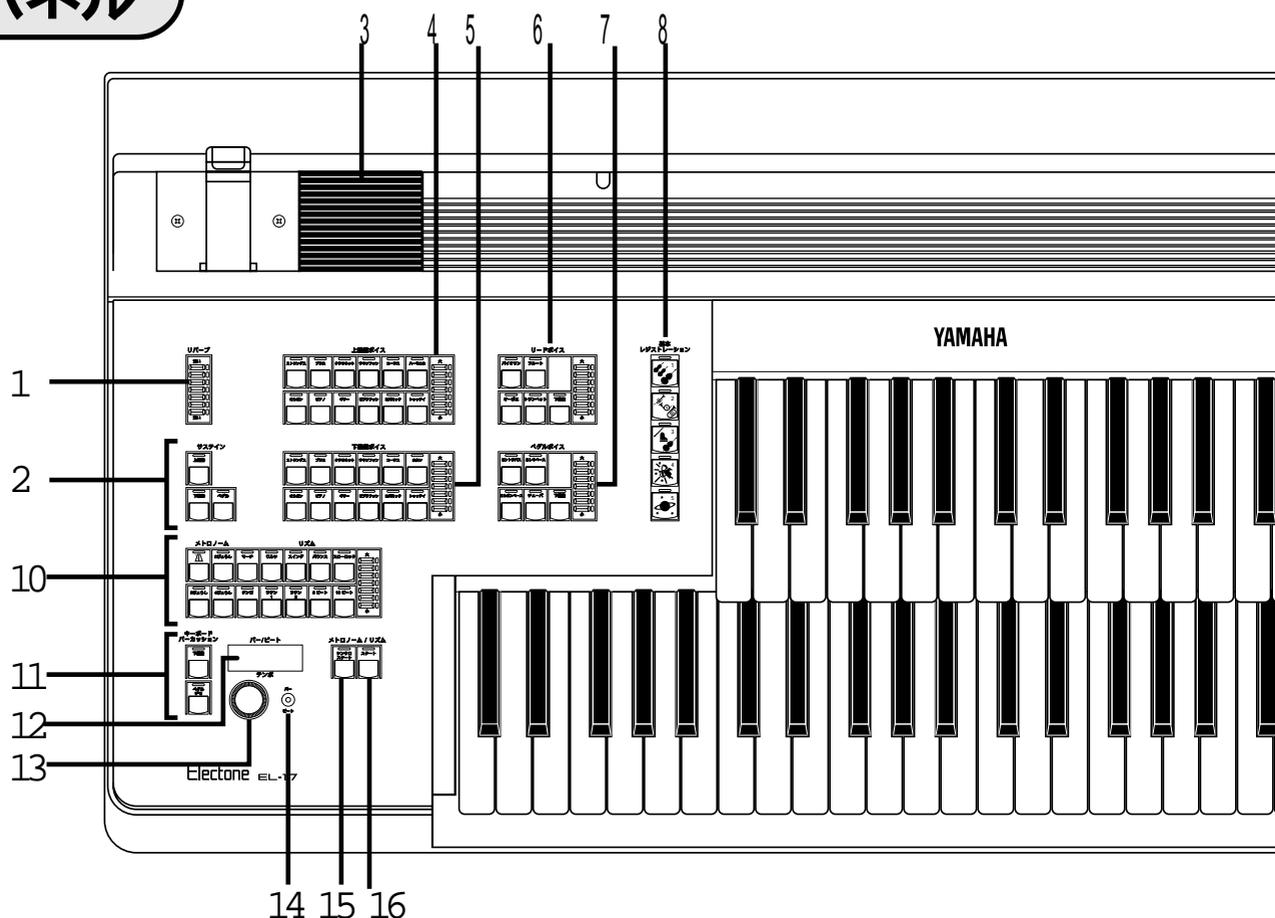
エフェクト

リズム

資料

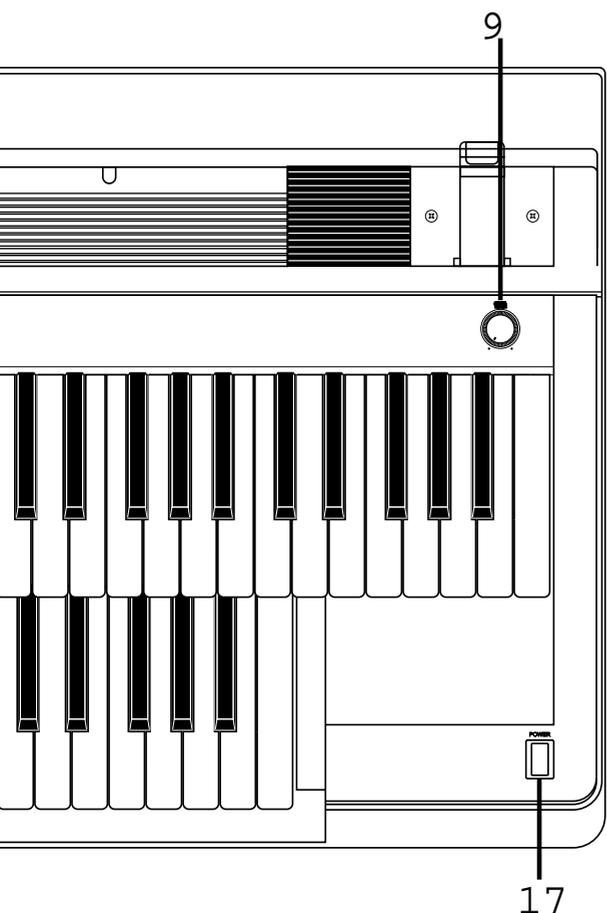
各部の名称とはたらき

操作パネル

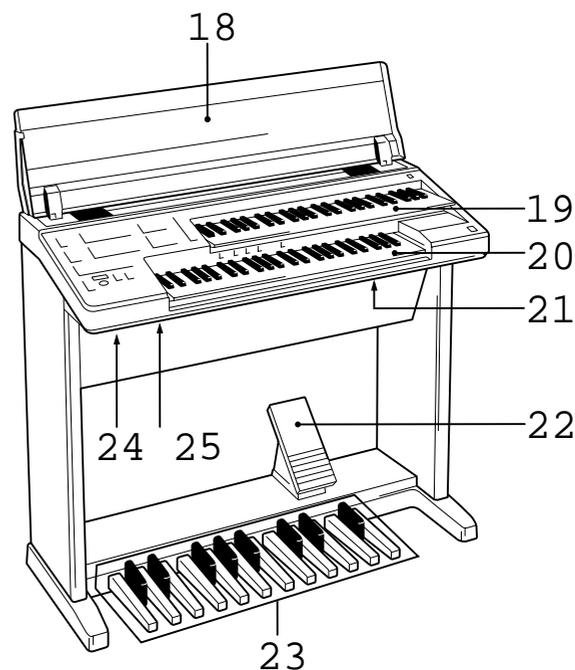


- リバーブ ボタン(15 ページ)**
全体にかかるリバーブ(残響)効果の深さを調節できます。
- サステイン ボタン(15 ページ)**
上鍵盤ボイス、下鍵盤ボイス、ペダルボイスごとに、サステイン(余韻)効果をかけることができます。
- モニター スピーカー**
自分の演奏がよく聞こえるように、ここからも音が出ます。
- 上鍵盤ボイス(13 ページ)**
音群の一つで、上鍵盤の音色を選んだり、音量を調節できます。
- 下鍵盤ボイス(13 ページ)**
音群の一つで、下鍵盤の音色を選んだり、音量を調節できます。
- リード ボイス(13 ページ)**
音群の一つで、リード ボイス用の音色を選んだり、音量を調節できます。
- ペダル ボイス(13 ページ)**
音群の一つで、ペダル鍵盤の音色を選んだり、音量を調節できます。
- 基本 レジストレーション ボタン(6 ページ)**
基本レジストレーションを選択することができます。
- 音量ダイヤル(4 ページ)**
エレクトーン全体の音量を調節します。
- メトロノーム/リズム(16 ページ)**
リズム パターンやメトロノームを選んだり、音量を調節できます。
- キーボード パーカッション ボタン(18 ページ)**
下鍵盤やペダル鍵盤で打楽器の音を出すときに使用します。
- デジタル表示(17 ページ)**
リズムの速さや、小節数 / 拍数を表示します。
- テンポ ダイヤル(17 ページ)**
リズムの速さを調節できます。

全体図



- 14 **バー/ビート(テンポ)ランプ(17ページ)**
テンポに合わせ、各小節の一拍目、または各拍ごとに光ります。
- 15 **シンクロ スタート ボタン(16ページ)**
下鍵盤やペダル鍵盤を押すことにより、リズムやメトロノームをスタートさせることができます。
- 16 **スタート ボタン(16ページ)**
リズムやメトロノームをスタート、ストップさせることができます。
- 17 **パワー スイッチ(4ページ)**
電源をオン/オフします。



- 18 **キーボードカバー / 譜面板**
- 19 **上鍵盤**
- 20 **下鍵盤**
- 21 **MIDI端子**
- 22 **エクスプレッション ペダル(4ページ)**
演奏中の音の強弱を調節できます。
- 23 **ペダル鍵盤**
- 24 **AUX. OUT (ライン出力端子 / モノラル)**
エレクトーンの出力を外部のアンプやスピーカーで鳴らすための端子です。家庭用のステレオやカセットデッキにつないで音を聞いたり、録音したりできます。
- 25 **HEADPHONES (ヘッドフォン接続端子)**
この端子にヘッドフォンのプラグを差し込むと、本体のスピーカーがオフになります。深夜の演奏などは、ヘッドフォンでお楽しみください。

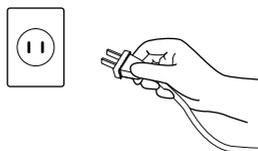
EL-17の基本操作

EL-17には、リアルで多彩な音色やリズムのほかに、演奏に役立ついろいろな機能が付いています。

この章では、EL-17の基本的な操作方法を簡潔にまとめて説明します。

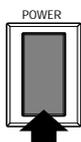
1. 演奏までの準備

1 電源プラグは必ずAC100Vコンセントに差し込みます。



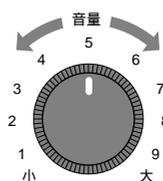
❗ 誤ってエアコン用などの200Vのコンセントを使用しないようご注意ください。

2 [POWER(パワー)]スイッチを押してエレクトーンの電源を入れます。

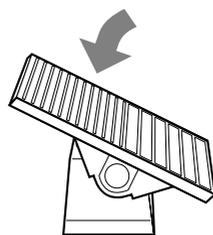


❗ エレクトーンの電源を切ると、パネル上で設定されたデータはすべて消去され、再び電源を入れると自動的に基本レジストレーション1の設定に戻ります。

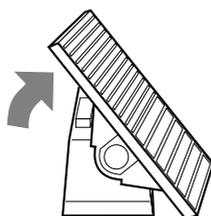
3 [音量]ダイヤルを回して音量を設定します。
[音量]ダイヤルでは、エレクトーン全体の音量を調節します。



4 エクスプレッションペダルを右足で適度に踏み込みます。
エクスプレッションペダルでは、演奏中の音の強弱を調節します。このペダルが上がったままの状態では、音は出ません。



大きくなる



小さくなる

2. デモ曲を聞きましょう

自分で演奏する前に、EL-17のデモ曲(自動演奏曲)を聞いてみましょう。

1

パネル左下の[デモ(ペダル)]ボタンを押して、そのまま押さえ続けます。

[基本レジストレーション]ボタンの5つのランプが点滅を開始します。

2

[デモ(ペダル)]ボタンを放します。

[基本レジストレーション]ボタンの5つのランプが点滅を繰り返し、デモ曲選択待機状態に入っていることを示します。

3

演奏を聞きたい曲の[基本レジストレーション]ボタンを押します。

[基本レジストレーション]ボタンに割り付けてあるデモ曲

- 1 アイネ クライネ ナハト ムジーク W.A.モーツァルト作曲
- 2 ロンドン橋 イギリス曲
- 3 野ばらに寄す E.A.マクダウェル作曲
- 4 きらきら星 フランス曲
- 5 コミカルトレイン 渡辺 睦樹作曲

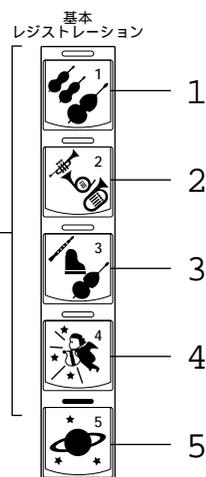
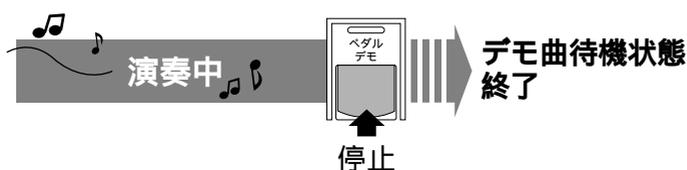
演奏がすぐにスタートします。

演奏が終わると、[基本レジストレーション]ボタンの5つのランプが点滅を繰り返し、デモ曲選択待機状態に戻ります。

4

[デモ(ペダル)]ボタンをもう一度押すと、デモ曲選択待機状態から抜けます。

デモ曲の演奏中に[デモ(ペダル)]ボタンを押すと、デモ曲の演奏がストップし、デモ曲選択待機状態から抜けます。



ランプが順番に点滅します。

NOTE デモ曲の自動演奏中は、鍵盤の演奏やパネルのボタン操作、エクスペッションペダルの操作には反応しません([基本レジストレーション]ボタンと[デモ(ペダル)]ボタンを除く)。

NOTE 別売のミュージックディスクレコーダーMDR-4の再生中は、デモ機能は使用できません。

3. 演奏してみましょ

初めてエレクトーンを演奏される方でも、基本レジストレーションを使って、EL-17を簡単にお楽しみいただけます。

基本レジストレーション

[基本レジストレーション]には、5種類の基本的なレジストレーション(音色などの組み合わせ)があらかじめ設定されています。

この5種類のレジストレーションは、それぞれ幅広い音楽ジャンルの中の代表的なセッティングになっています。

[基本レジストレーション]セクションのボタンを押すだけで、各鍵盤に自動的にレジストレーションが設定されます。



下の表は、基本レジストレーションの音色表です。

基本レジストレーション	上鍵盤の音色	下鍵盤の音色	ペダルの音色
1	ストリングス	ストリングス	コントラバス
2	ブラス	ホルン	チューバ
3	フルート	ピアノ	コントラバス
4	コズミック(1)	コズミック2	コズミック2
5	シンセブラス	コズミック3	シンセベース

NOTE エレクトーンの電源を入れると、必ず基本レジストレーションの1が選択されます。

つぎのページに基本レジストレーションの1から5に合った簡単な楽譜を用意しました。

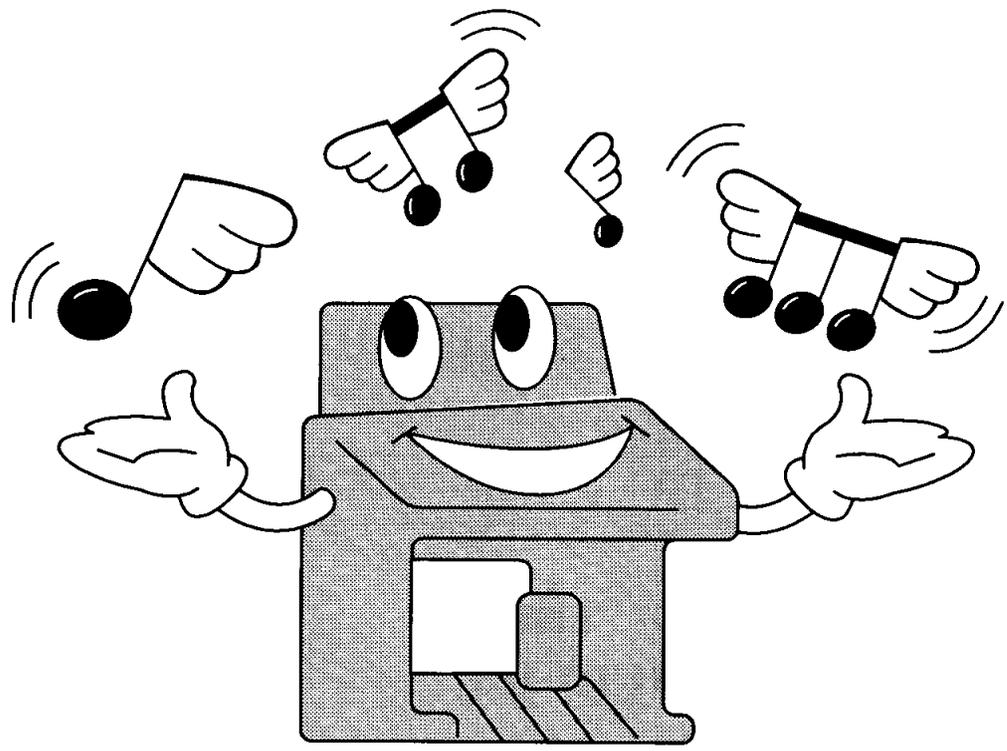
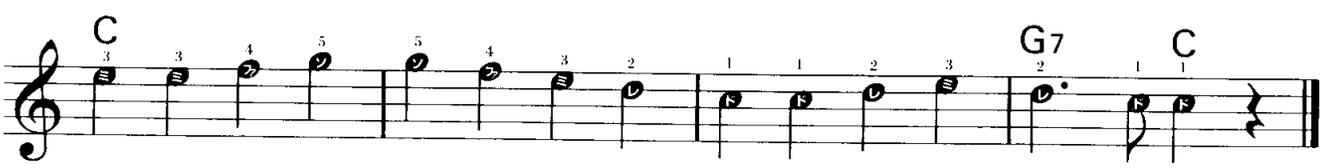
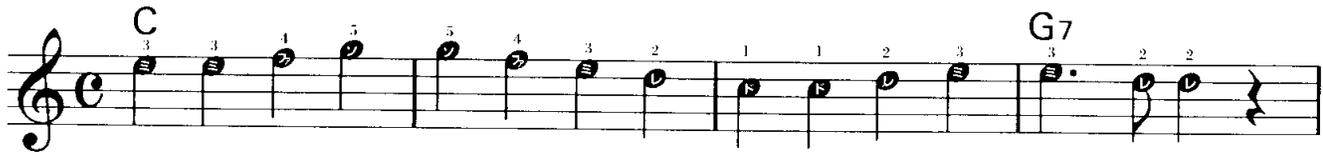
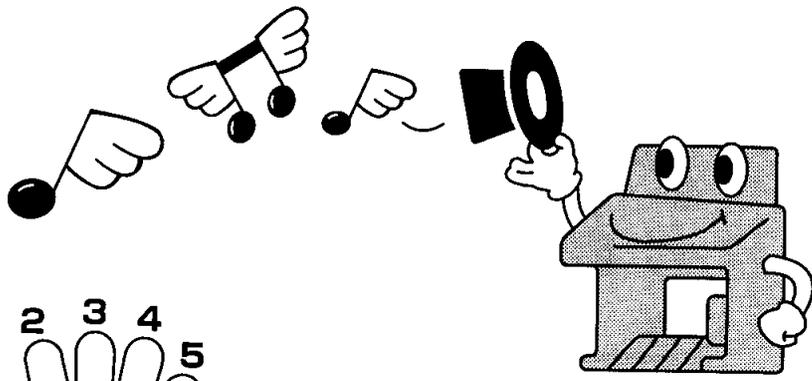
各楽譜に指定してある番号の[基本レジストレーション]ボタンを押して、上鍵盤でメロディを弾いてみましょう。

NOTE 基本レジストレーションで使用されている音色の中には、EL-17では通常選択できない(パネル上にない)ものがあります。(基本レジストレーションの4と5のコズミック2、コズミック3、シンセブラス、シンセベース)

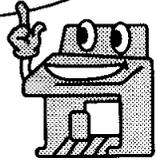
NOTE (メトロノーム以外の)リズムのボリュームやテンポを設定した上で[基本レジストレーション]ボタンを押すと、リズムのボリュームやテンポは電源を入れた時の値(ボリューム=0、テンポ=120)に戻ります。

よろこびのうたより ベートーベン作曲

まず、右手でメロディだけ弾いてみましょう。



では次に、下鍵盤 (左手)とペダル鍵盤で伴奏を付けながら、メロディを弾いてみましょう！



聖者の行進

アメリカ民謡

伴奏パターン



左手



ペダル

左足

Musical notation for the first staff of the accompaniment pattern. It shows a treble clef with a C chord symbol above the first measure. The melody consists of quarter notes: C4, E4, G4, F4, E4, D4, C4. There are fingerings 1, 3, 1, 5, 1, 3, 2, 5 above the notes. Pedal markings (a circle with a vertical line) are placed under the first and fifth notes.

Diagram showing the C major chord fingering on the piano keyboard. The notes C, E, and G are marked with fingerings 5, 2, and 1 respectively.

Musical notation for the second staff of the accompaniment pattern. It shows a treble clef with C and G7 chord symbols above the first and second measures. The melody consists of quarter notes: C4, E4, G4, F4, E4, D4, C4. There are fingerings 3, 1, 3, 2, 3, 3, 2 above the notes. Pedal markings are placed under the first and fifth notes.

Diagram showing the C major chord fingering on the piano keyboard. The notes C, E, and G are marked with fingerings 5, 2, and 1 respectively.

Diagram showing the G7 chord fingering on the piano keyboard. The notes G, B, and D are marked with fingerings 5, 3, and 1 respectively.

Musical notation for the third staff of the accompaniment pattern. It shows a treble clef with C and F chord symbols above the first and second measures. The melody consists of quarter notes: C4, E4, G4, F4, E4, D4, C4. There are fingerings 1, 1, 3, 5, 2, 4, 3, 1 above the notes. Pedal markings are placed under the first and fifth notes.

Diagram showing the C major chord fingering on the piano keyboard. The notes C, E, and G are marked with fingerings 5, 2, and 1 respectively.

Diagram showing the F major chord fingering on the piano keyboard. The notes F, A, and C are marked with fingerings 5, 3, and 1 respectively.

Musical notation for the fourth staff of the accompaniment pattern. It shows a treble clef with C, G7, and C chord symbols above the first, second, and third measures. The melody consists of quarter notes: C4, E4, G4, F4, E4, D4, C4. There are fingerings 3, 1, 2, 1 above the notes. Pedal markings are placed under the first and fifth notes.

Diagram showing the C major chord fingering on the piano keyboard. The notes C, E, and G are marked with fingerings 5, 2, and 1 respectively.

Diagram showing the G7 chord fingering on the piano keyboard. The notes G, B, and D are marked with fingerings 5, 3, and 1 respectively.

Diagram showing the C major chord fingering on the piano keyboard. The notes C, E, and G are marked with fingerings 5, 2, and 1 respectively.

禁じられた遊び スペイン曲

伴奏パターン

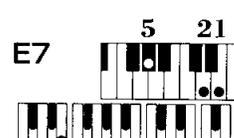
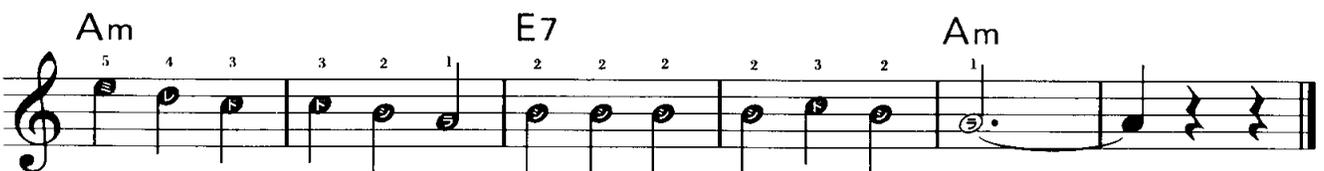
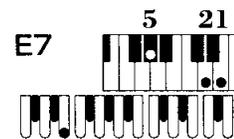
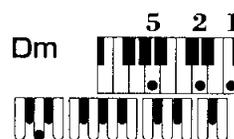
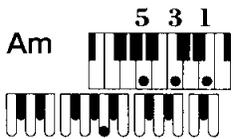
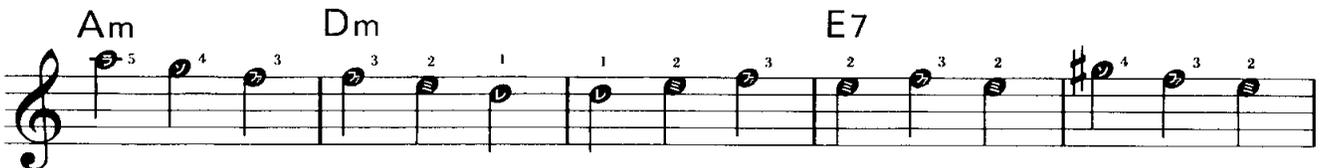
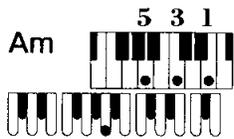
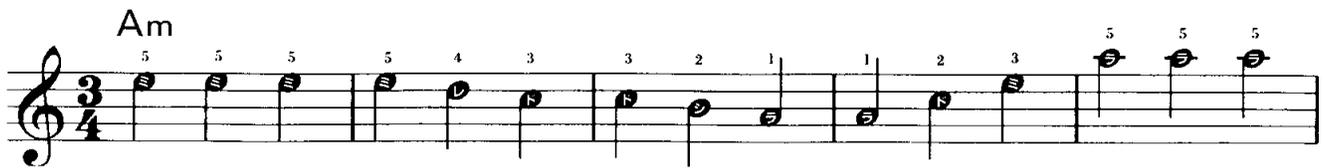
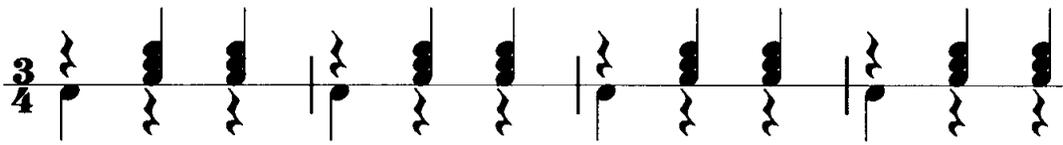


左手



左足

ペダル



キラキラ星 フランス民謡

伴奏パターン



左手

2/4



ペダル

左足

C F C G7 C G7 C

C 5 2 1 F 5 3 1 C 5 2 1 G7 5 3 1 C 5 2 1 G7 5 3 1 C 5 2 1

C G7 C G7 C G7 C G7

C 5 2 1 G7 5 3 1 C 5 2 1 G7 5 3 1

C F C G7 C G7 C

C 5 2 1 F 5 3 1 C 5 2 1 G7 5 3 1 C 5 2 1 G7 5 3 1 C 5 2 1

チョップスティックスより ヒルスター採譜

伴奏パターン



左手



ペダル

左足

3/4

G7 C G7

G7

C

G7

G7 C G7

G7

C

G7

C G7 C

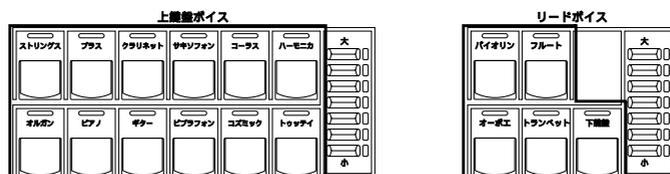
C

G7

C

ボイス(音色)を選ぶ

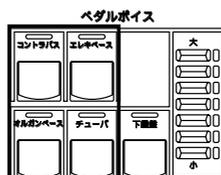
基本レジストレーションで設定された音色以外の音色を選んで演奏してみましょう。
上鍵盤ボイスの中から上鍵盤で演奏するボイスを選択します。(選択されたボイスのランプが点灯します。)リードボイスも上鍵盤で演奏できます。



下鍵盤ボイスの中から下鍵盤で演奏するボイスを選択します。



ペダルボイスの中からペダル鍵盤で演奏するボイスを選択します。

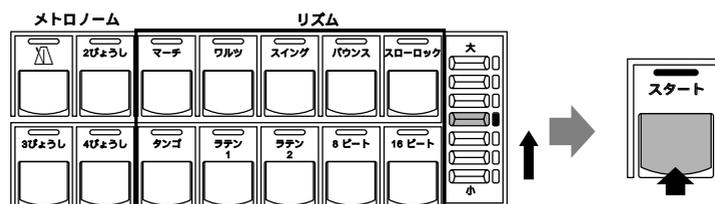


また、リードボイスやペダルボイスを下鍵盤に移すこともできます。

➡ 詳細については、14ページをご参照ください。

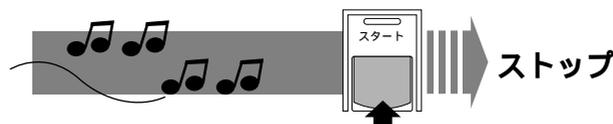
リズムを使う

リズムやメトロノームに合わせて演奏してみましょう。基本レジストレーションを選ぶと、リズムの音量は0になります。リズムをスタートさせる前に、リズムの音量を上げましょう。リズムボタンを押してリズムの種類を選択した上で、[リズム]セクションにある[スタート]ボタンを押します。



リズムがスタートします。

[スタート]ボタンをもう一度押すと、リズムがストップします。



[テンポ]ダイヤルを回して、リズムの速さを調節します。時計回りに回すと速くなり、逆に回すと遅くなります。



➡ 詳細については、17ページをご参照ください。

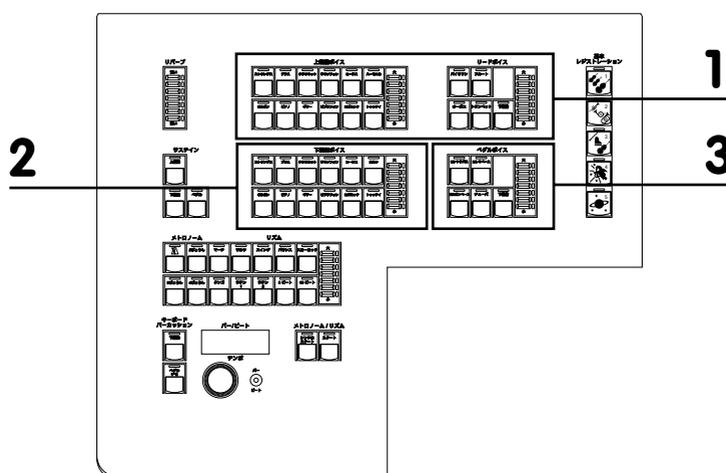
ボイス

EL-17には、上鍵盤ボイス、リードボイス、下鍵盤ボイス、ペダルボイスの4つの音群があります。

上鍵盤ボイスとリードボイスは上鍵盤に、下鍵盤ボイスは下鍵盤に、そしてペダルボイスはペダル鍵盤にそれぞれ属します。

1. パネルで音色を選ぶ

演奏したい鍵盤に属する音群のボイスボタンを押すことで、ボイス(音色)を選択することができます。



1 上鍵盤ボイスとリードボイスの中から上鍵盤で演奏するボイスを選択します。

選択されたボイスのランプが点灯します。

NOTE リードボイスでは和音を演奏することはできません。複数の鍵盤を同時に押さえた場合、リードボイスは押された鍵盤の一番高い音だけが発音されます(単音/高音優先)。

2 下鍵盤ボイスの中から下鍵盤で演奏するボイスを選択します。

選択されたボイスのランプが点灯します。

NOTE 複数の鍵盤を同時に押さえた場合、ペダルボイスは押された鍵盤の一番高い音だけが発音されます(単音/高音優先)。

3 ペダルボイスの中からペダル鍵盤で演奏するボイスを選択します。

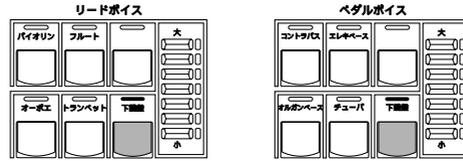
選択されたボイスのランプが点灯します。

NOTE 基本レジストレーションの3や4、5が選択されている場合(EL-17では選択できない音色が使用されている場合)、音色ボタンのランプが点灯しない音群があります。

! エレクトーンの電源を切ると、パネル上で設定されたデータはすべて消去され、再び電源を入れると自動的に基本レジストレーション1の設定に戻ります。

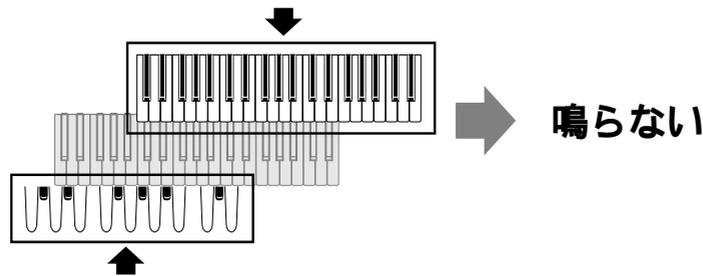
トウーロー(下鍵盤へ)機能について

パネル上の上鍵盤のリードボイスやペダル鍵盤のペダルボイスの音色は、それぞれの音群内の[下鍵盤]ボタンを押せば、下鍵盤に移して演奏することができます。



サステインをかけたペダルボイスを[下鍵盤]ボタンを押して下鍵盤に移した場合、移された下鍵盤でもそのボイスにサステインがかかります。

[下鍵盤]ボタンを押してリードボイス/ペダルボイスを下鍵盤に移した場合、上鍵盤/ペダル鍵盤を弾いても、リードボイス/ペダルボイスは鳴りません。

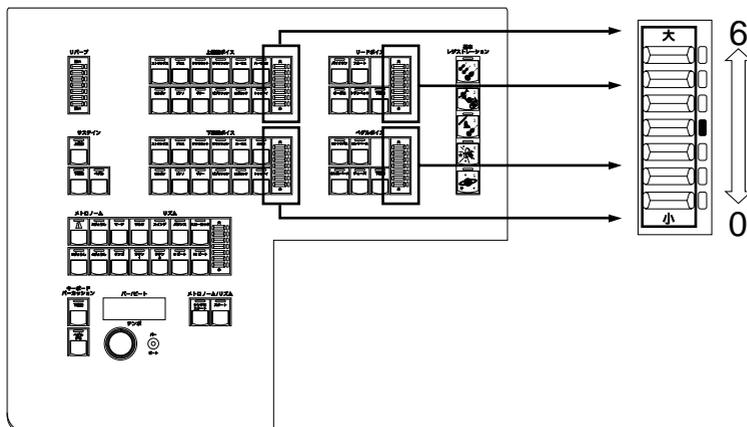


2. 音群ごとに音量を設定する

ボイスを選択したあと、そのボイスが属する音群の音量を設定します。音群間のバランスをとることができます(鍵盤ごとに異なった音量を設定することができます)。

それぞれの音群の右端にあるボリュームコントロールを押して調節します。

0~6の7段階になっています。



NOTE [基本レジストレーション]ボタンを押して基本レジストレーションを選択した場合、ボリュームが7段階以上の細かい設定になっていることがあります。(ランプが2つ点灯し、音量がその中間にあることを示します。)

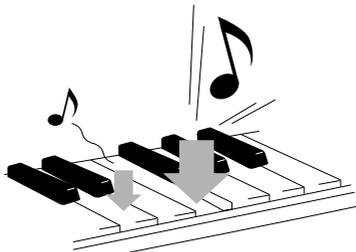
NOTE トウーロー(下鍵盤へ)機能で下鍵盤に移したボイスの音量は、そのボイスが属している(元の)音群のボリュームコントロールで調節します。)

エフェクト

選択したボイス(音色)にいろいろな変化をつけることができます。

1. タッチトーン

EL-17には、タッチトーン機能がついています。タッチトーンは、上鍵盤や下鍵盤の鍵盤をたたくスピードや鍵盤を押さえる強さによって音量や音質をコントロールする機能です。この機能を効果的に使うことによって、個々の楽器特有の微妙な表現ができます。



鍵盤のたたき方で音量や音質が変わります。

NOTE タッチトーンは、イニシャルタッチとアフタータッチで構成されています。イニシャルタッチは、音の立ち上がりの音量 / 音質を変化させ、アフタータッチは、立ち上がった後の音量 / 音質を変化させます。

NOTE タッチトーンはペダルボイスにはかかりません。タッチトーンは、オルガン音色にはかかりません。また、減衰系の音(ピアノなど)には、アフタータッチはかかりません。

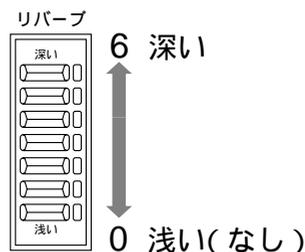
2. リバース

リバースは、全体の音(リズムを含む)に広い部屋やコンサートホールで演奏しているような響きを与えます。

パネル左端の[リバース]ボリュームボタンを押して、リバースの深さを設定します。

[深い](最大)から[浅い](最小)まで、7段階の調整ができます。

(一番下のボタンを押すと、リバース0となってリバースがからなくなります。)



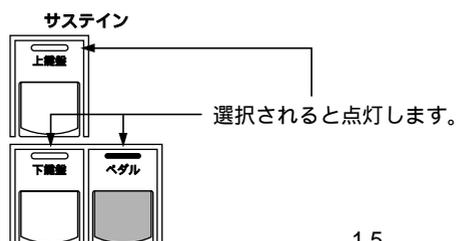
3. サステイン

サステインは、鍵盤から指を放した後、音に余韻を与える効果です。音群ごとにオン/オフすることができます。

[サステイン]セクションにあるサステインをかけたい鍵盤のボタンを押します。

ボタンのランプが点灯し、サステインがオンの状態であることを示します。

もう一度ボタンを押すと、サステインはオフになります。



NOTE サステインはリードボイスにはかかりません。

NOTE 余韻の長さは音色によって異なります。

! エレクトーンの電源を切ると、パネル上で設定されたデータはすべて消去され、再び電源を入れると自動的に基本レジストレーション1の設定に戻ります。

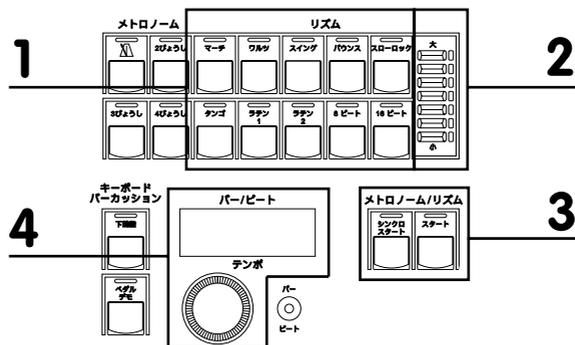
リズム

EL-17のリズムは、実際のドラムやパーカッションをサンプリングして作られていますので、リアルで迫力のあるリズムが得られます。

さらに、キーボードパーカッション機能を使って、下鍵盤やペダル鍵盤をドラムのように演奏することができます。

1. リズムを使用する

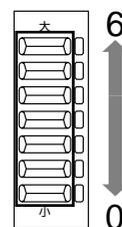
10種類のリズムと4種類のメトロノームの中から選択して鳴らすことができます。



1 演奏したいリズムのボタンを押して、リズムを選択します。
選択されたリズムのランプが点灯します。

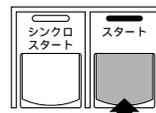
NOTE エレクトーンの電源を入れたときは、リズムのボリュームは0、テンポは120の設定になっています。

2 リズムの右にあるボリュームボタンを押してリズムの音量を調節します。
パネルのボリュームは、0～6の7段階になっています。



3 リズムセクションの下のスタートボタンを押します。
2通りのスタート方法があります。

[スタート]
このボタンを押すと同時にリズムがスタートします。
もう一度押すとリズムがストップします。

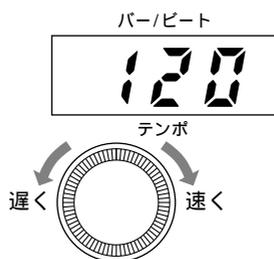


[シンクロスタート]
演奏と同時にリズムをスタートさせます。
このボタンを一度押して、リズムスタート待機状態にします。下鍵盤かペダル鍵盤を弾くと同時にリズムがスタートします。
もう一度押すとリズムがストップします。

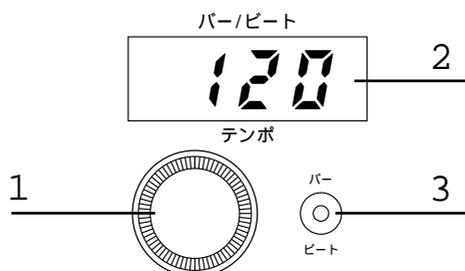


4

リズムセクションの下のテンポダイヤルを回して、リズムの速さを調節します。
電源を入れたときは120になっています。



テンポについて



1 [テンポ]ダイヤル

リズムの速さを調節します。時計回りに回すと速くなり、逆に回すと遅くなります。
テンポの設定範囲は40～240(1分間に何拍打つかという拍数)です。

2 デジタル(テンポまたはバー/ビート)表示

リズムの停止中はテンポダイヤル上のデジタル表示が、現在設定されているテンポを表示します。



テンポ表示の場合

リズムの演奏中はテンポダイヤル上のデジタル表示が、現在演奏中のバー(小節)とビート(拍)を表示します。



左の数字は小節数を表します。

バー/ビート表示の場合

右の数字は小節の拍数を表します。

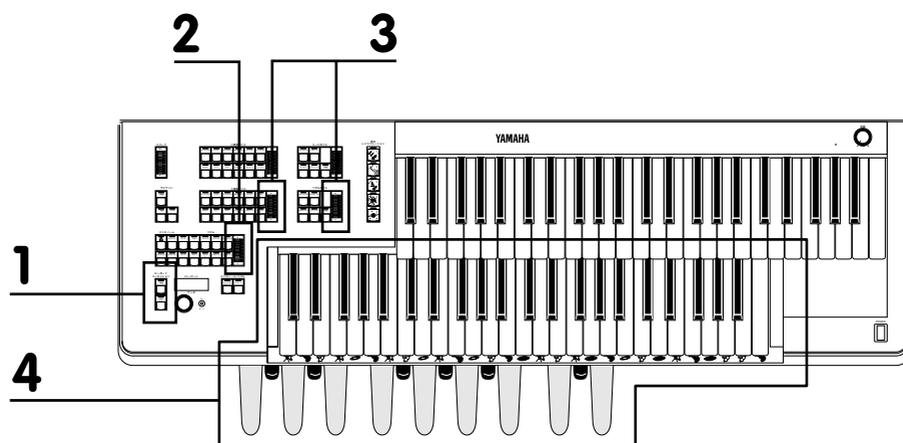
3 バー/ビートランプ

演奏中は、テンポに合わせて各小節の1拍目ごとに点滅します。シンクロスタートボタンを押してリズムがスタートするまでの間は1拍ごとに点滅します。

NOTE (メトロノーム以外の)リズムのボリュームやテンポを設定した上で[基本レジストレーション]ボタンを押すと、リズムのボリュームやテンポは電源を入れた時の値(ボリューム=0、テンポ=120)に戻ります。

2. キーボードパーカッションを使用する

キーボードパーカッション機能を使って、下鍵盤やペダル鍵盤で43種類の打楽器音を演奏することができます。



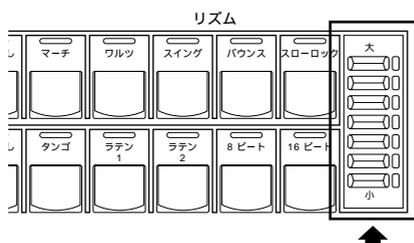
- 1 パネル左端にある[キーボードパーカッション]セクションで、[下鍵盤]や[ペダル]ボタンを押してオンにします。

キーボードパーカッション

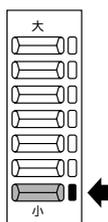


! エレクトーンの電源を切ると、パネル上で設定されたデータはすべて消去され、再び電源を入れると自動的に基本レジストレーション1の設定に戻ります。

- 2 ボリュームを設定します。
パーカッションサウンドの音量は、リズムセクションのボリュームボタンと共通です。



- 3 下鍵盤とペダル鍵盤のボイス(音色)の音量を0にします。



- 4 下鍵盤とペダル鍵盤で、つぎのページにあるドラムやパーカッションの音色が演奏できます。

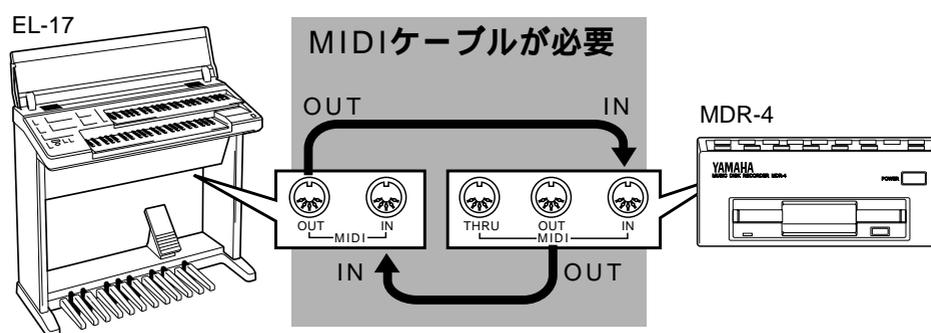
資料

MIDIについて

EL-17の鍵盤の右下には、MIDI (ミディ)端子が付いています。

MIDI (ミディ)とはMusical Instrument Digital Interfaceの略で、電子楽器同士をつないで音楽情報や演奏データの交換をするための世界共通の規格です。たとえば、EL-17の上鍵盤で演奏したメロディを別のシンセサイザーで発音させたり、EL-17のリズムをスタートさせて、リズムマシンやコンピューターを同じテンポで演奏したりすることもできます。別売のヤマハミュージックディスクレコーダーMDR-4もMIDIを経由して接続します。

MIDI (ミディ)機能を使用するためには、データのやり取りをするためのMIDI機器と接続するためのMIDIケーブルが必要です。



また、MIDI機器間でデータのやり取りを行うためには、両方のMIDI機器の送信/受信チャンネルを合わせる必要があります。ただし、EL-17の送信/受信チャンネルは以下のように固定になっています。したがって、外部MIDI機器をEL-17に合わせる必要があります。

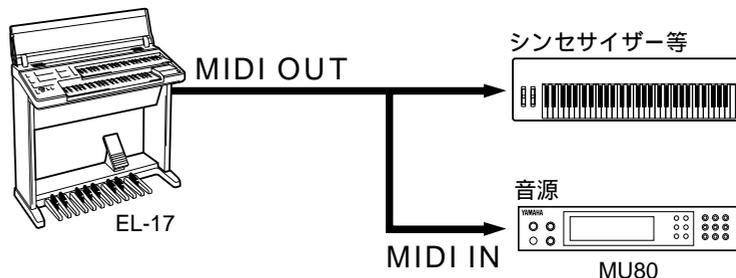
MIDIキーボード/コントローラー	送信/受信
上鍵盤	1チャンネル
下鍵盤	2チャンネル
ペダル鍵盤	3チャンネル
キーボードパーカッション (受信のみ)	15チャンネル
コントロール (エクスプレッションペダルや基本レジストレーションの操作情報)	16チャンネル

NOTE MIDIメッセージについては、
23ページをご参照ください。

MIDIの接続例

1. MIDI OUT端子を使ってできること

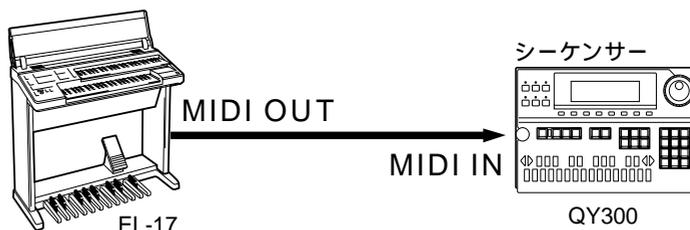
MIDIキーボードまたは MIDI音源を接続した場合



EL-17で演奏すると、接続した機器もその機器の音色で同時に鳴らすことができます。(ただし、外部MIDI機器の受信チャンネルがEL-17の送信チャンネルと一致している必要があります。)

この他にもいろいろな操作情報が出力されます。相手側が情報を受けてどう対応するかは、相手側のMIDI機能によって決まります。

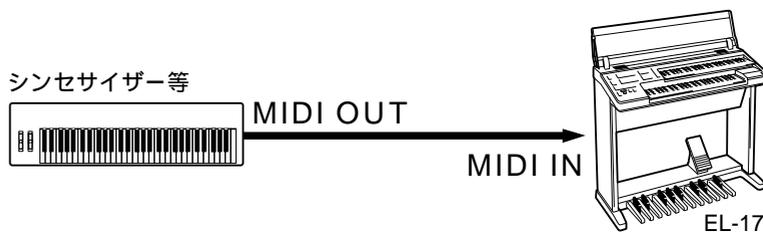
MIDIシーケンサーを 接続した場合



EL-17で演奏する内容を、外部MIDIシーケンサーに記録できます。
音色の切替情報をはじめ、様々な操作情報を記録できます。

2. MIDI IN端子を使ってできること

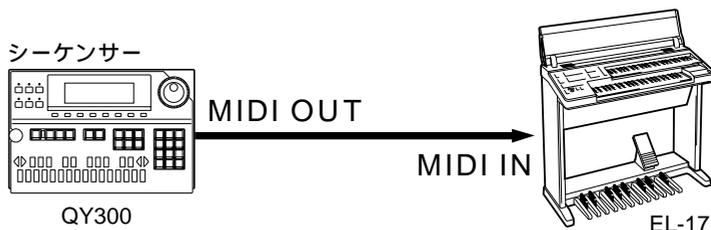
MIDIキーボードに 接続した場合



外部のMIDIキーボードで演奏すると、EL-17もEL-17の音色で同時に鳴らすことができます。(ただし、外部MIDI機器の送信チャンネルがEL-17の受信チャンネルと一致している必要があります。1チャンネルの場合は上鍵盤が、2チャンネルの場合は下鍵盤が、3チャンネルの場合はペダル鍵盤が指定した音域で演奏されます。)

外部MIDIキーボードの演奏により、EL-17をキーボードパーカッションの音で鳴らすことができます。
(ただし、外部MIDI機器の送信チャンネルが15チャンネルである必要があります。)

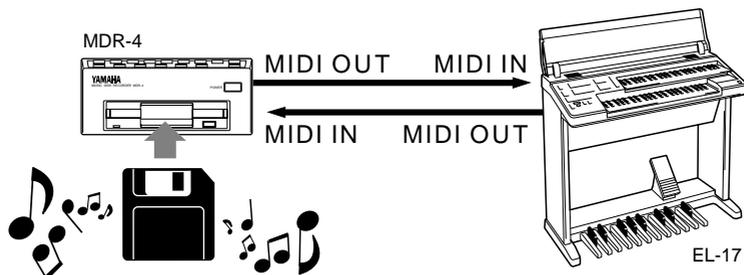
MIDIシーケンサーに 接続した場合



MIDIシーケンサーに記録済みの演奏内容を、EL-17で再生することができます。

MDR-4について

別売のミュージック ディスク レコーダー MDR-4をMIDIケーブルでEL-17に接続すると、フロッピーディスクを使って演奏を録音、再生することができます。



MDR-4には、つぎの機能があります。

エレクトーン演奏を録音、再生する

上鍵盤、下鍵盤、ペダル鍵盤の音をそれぞれ別々に録音する

エレクトーン演奏の録音を中断して、最初から録音し直す

キーボードパーカッションを録音する

再生中に一時停止をする、再生中に早送りまたは早戻しをする

録音した演奏の中から、特定の鍵盤の演奏だけを再生する

フロッピーディスクに録音したすべての曲または、特定の1曲だけを繰り返し再生する

録音した曲のテンポを変える

テンポを変更した後、録音したときのテンポに戻す

すでに録音した曲を別のソングナンバーにコピーする

録音してある曲を削除する

MDR-4を使って作成したEL-17のデータを、EL-50などの上位機種で再生することができます。

EL-50などの上位機種でつくったデータを、MDR-4を使ってEL-17で再生すると、上位機種のデータが正しく再生されない場合があります。(EL-17が上位機種に比べて、ボイスやリズム数が少なく機能も少ないためです。)

MIDIコード一覧

チャンネルメッセージ

コード	ファンクション	送信	受信	備考
8n,nn(ノートNo.),00-7F	ノートオフ	×	1ch 2ch 3ch 15ch	上鍵盤 下鍵盤 ペダル鍵盤 キーボードパーカッション
9n,nn(ノートNo.),00 01-7F	ノートオフ オン	1ch 2ch 3ch ×	1ch 2ch 3ch 15ch	上鍵盤 下鍵盤 ペダル鍵盤 キーボードパーカッション
BF,0B,00-7F	エクスプレッション	16ch	16ch	コントロール
Cn,70-74(基本レジストNo.)	プログラムチェンジ	×	1ch 2ch 3ch 16ch	上鍵盤 下鍵盤 ペダル鍵盤 コントロール
Dn,00-7F	アフタータッチ	1ch 2ch	1ch 2ch	上鍵盤 下鍵盤

リアルタイムメッセージ

コード	ファンクション	送信	受信	備考
F8	クロック		*1	
FA	スタート			
FC	ストップ			
FE	アクティブセンシング			

*1 外部同期モードのみ。

システムエクスクルーシブメッセージ

1. エレクトーン共通メッセージ

	コード	メッセージ	送信	受信
バルクダンプデータ関係	F0,43,70,70,30,F7	モデルIDデータ送信要求	×	
コントロールチェンジ	F0,43,70,70,40,50,Tl,Th,F7	テンポ		
MDR関係	F0,43,70,70,70,01,F7	プレイスタート	×	
	02	ストップ	×	
	03	レコードスタート	×	
	04	ストップ	×	
	05	早送りスタート	×	
	06	ストップ	×	
	09	リズムポインターリセット *1	×	
その他	F0,43,70,70,78,SC,NC,F7	パースIGNAL		

*1 巻き戻しでは、リズムポインターリセットと早送りの信号が送られる。

2. ELシリーズ共通メッセージ

コード	メッセージ	送信	受信
F0,43,70,78,41,...(データ)...F7 F0,43,70,78,42,...(データ)...F7	パネルスイッチイベントデータ *1 カレントレジストレーションデータ		

*1 次ページのスイッチコード一覧を参照。

3. モデル固有メッセージ

コード	メッセージ	送信	受信
F0,43,70,nn,00,F7	モデルIDデータ		×

nnは、44(EL-17)

4. エレクトーン/シングルキーボード共通メッセージ

コード	メッセージ	送信	受信
F0,43,73,01,02,F7	内部同期モード要求	×	
03	外部同期モード要求	×	

スイッチコード一覧

F0,43,70,78,41,コード,データ,F7

ファンクション/スイッチ	コード	データ	備考	
セレクタ	上鍵盤ボイス	02	02-0D	スイッチナンバー
	下鍵盤ボイス	03	02-0D	
	リードボイス	06	01-04	
	ペダルボイス	07	01-04	
	リズム	0B	01-0B	
	ボリューム			
ボリューム	上鍵盤ボイス	12	00-7F	ボリュームデータ
	下鍵盤ボイス	13	00-7F	
	リードボイス	16	00-7F	
	ペダルボイス	17	00-7F	
	リズム	1A	00-7F	
	リバーブ	1B	00-7F	
トゥロワー (下鍵盤ボタン)	リードボイス	36	00,01	00-OFF,01-ON
	ペダルボイス	37	00,01	
サステイン	上鍵盤	50	00,01	00-OFF,01-ON
	下鍵盤	51	00,01	
	ペダル	52	00,01	
キーボードパーカッション	下鍵盤	5B	00,01	00-OFF,01-ON
	ペダル	5C	00,01	
メトロノーム (リズムシーケンス)	1	61	00,01	00-OFF,01-ON
	2	62	00,01	
	3	63	00,01	
	4	64	00,01	

MIDIインプリメンテーションチャート

Date:1995.8.1
Version: 1.0

ファンクション		送信	受信	備考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1, 2, 3, 16チャンネル *****	1, 2, 3, 15, 16チャンネル *****	3
モード	電源ON時 メッセージ 代用	モード3 x *****	モード3 x x	
ノートナンバー	音域	36-96 1 *****	36-96 2	
ベロシティ	ノートオン ノートオフ	9nH, v=1-127 9nH, v=0	9nH, v=1-127 9nH, v=0, 8nH	
アフタータッチ	キー別 チャンネル別	x 1, 2チャンネル	x 1, 2チャンネル	
ピッチベンド		x	x	
コントロールチェンジ	1 4 11 64	x x x x	x x (外部モード時のみ) x	モジュレーションホイール セカンドエクスプレッションペダル エクスプレッションペダル サステイン
プログラムチェンジ	設定可能	112-116 *****	112-116 *****	
システムエクスクルーシブ				MIDIコード参照
コモン	ソングポジション ソングセレクト チューン	x x x	x x x	
リアルタイム	クロック コマンド		(外部同期モード時のみ)	FAH, FCH
その他	ローカルON/OFF オールノートオフ アクティブセンシング リセット	x x x	x x x	
備考		1 1チャンネル：48-96、2チャンネル：36-84、3チャンネル：36-55 2 15チャンネルのみ36-127、他は36-96 3 1チャンネル：上鍵盤、2チャンネル：下鍵盤、3チャンネル：ペダル鍵盤、 15チャンネル：キーボードパーカッション、 16チャンネル：コントロール		

モード1：オムニ・オン、ポリ
モード3：オムニ・オフ、ポリ

モード2：オムニ・オン、モノ
モード4：オムニ・オフ、モノ

：あり
x：なし

故障かな？と思ったら

以下のような現象は故障ではありません。

エレクトーンの特徴とよく比較いただいて、ご理解を深めていただきますようお願いいたします。

現象	原因と処置
時々「ガリッ」「ポツン」という雑音が入る。	近くで電気器具の電源をオン/オフしたり、故障した電気ドリルやネオンサインなどを使用している場合は雑音が入ることがあります。原因と思われる機器から、なるべく離れたコンセントをお使いください。また、原因不明の場合は、巻末のヤマハ電気音響製品アフターサービス拠点までご相談ください。
テレビやラジオ、無線などの電波が入る。	近くに大電力の放送局やアマチュア無線局があるためです。どうしても気になる場合は、巻末のヤマハ電気音響製品アフターサービス拠点までご相談ください。
テレビやラジオなどに雑音が入る。	エレクトーンのスグ近くにラジオやテレビが置いてあると、雑音が入ることがあります。なるべく離してお使いください。
音が周囲のものを共鳴させる。	エレクトーンの声は持続音が多いため、周囲の窓ガラスや戸棚などの器物を共鳴させることがあります。気になる場合は、共鳴物を取り除くか、音量を小さくしてください。
選んだ音色によって、各鍵盤に音量のバラつきがある。	電子楽器は、音色を変えるという本質的な要素を持つため、音色による各鍵盤の音量のバラつきをなくすことは非常に困難です。エレクトーンは、どの音色でも演奏上問題のないように設計、調整されていますが、設置場所や聞く位置によって音量や音色が異なることがあります。どうしても気になる場合は、巻末のヤマハ電気音響製品アフターサービス拠点までご相談ください。
ピッチがペダル鍵盤では高く、上/下鍵盤の高音部では低く感じられる。	特にピアノと比べた場合に感じますが、ピアノでは倍音構成が複雑なため、高音と低音は実音での調律ができず、倍音を聞いて調律しています。エレクトーンの場合は逆に実音で調律していますから、ピアノとエレクトーンでは本質的に違うわけです。
割れるような感じや、ノイズが入るような感じの音色がある。	おもに管楽器の音色で感じるのですが、これは実際の楽器音の特徴を再現するため、特に組み込まれた音色効果です。ブラスの振動やプレスノイズなど、よりリアルで、特徴のある音が得られます。
音が小さい。	音量が最小近くになっています。時計回りに回してください。 エクスプレッションペダルが踏み込まれていません。ペダルを踏み込んでください。
ボリュームを上げてても、ペダル鍵盤でペダルボイスの音色が発音されない。 または、上鍵盤でリードボイスの音色が発音されない。	トゥーロー機能がオンになっていませんか？該当する音群の[下鍵盤]ボタンを押してオフにしてください。
上鍵盤と下鍵盤を同時に11音押さえても、10音しか発音されない。	上鍵盤ボイスと下鍵盤ボイスは合わせて最大10音まで同時に発音されます。
ペダル鍵盤またはリードボイスを同時に2音以上押さえても、1音しか発音されない。	ペダル鍵盤またはリードボイスではそれぞれ同時に1音しか発音されません。同時に2音以上押さえた場合は、高音が優先されます。
リズムがスタートしない。	リズムのボリュームを確認してください。
下鍵盤またはペダル鍵盤を押さえると、リズム楽器の音と一緒に発音される。	キーボードパーカッションがオフになっているかを確認してください。

EL-17 仕様

鍵盤		上鍵盤：49鍵(C-C)、下鍵盤：49鍵(C-C)、ペダル：20鍵(C-G)
タッチトーン		上鍵盤ボイス、下鍵盤ボイス、リードボイス
音色	音源	新AWM
	上鍵盤ボイス 下鍵盤ボイス	ストリングス；プラス；クラリネット；サクソフォン；コーラス；オルガン、 ピアノ；ギター；ピブラフォン；コズミック；トゥッティ [上鍵盤ボイス]ハーモニカ；[下鍵盤ボイス]ホルン； (シンセプラス、コズミック2、3=基本レジストレーション)；ボリューム
	リードボイス	バイオリン；フルート；オーボエ；トランペット；下鍵盤ボタン；ボリューム
	ペダルボイス	コントラバス、エレキベース；オルガンベース；チューバ； (シンセベース=基本レジストレーション)；下鍵盤ボタン；ボリューム
エフェクト	リバーブ	デプス
	サステイン	上鍵盤、下鍵盤、ペダル：オン/オフ
リズム	リズム	マーチ；ワルツ；スイング；バウンス；スローロック；タンゴ；ラテン1(チャチャ)； ラテン2(サンバ)；8ビート；16ビート、メトロノーム(4種類)、ボリューム
	コントロールその他	スタート/ストップ、シンクロスタート、テンポダイアル、 デジタル表示
キーボードパーカッション		下鍵盤、ペダル；オン/オフ
基本レジストレーション		1～5
コントロール		パワーオン/オフ、音量、エクスプレッションペダル、デモ(5曲)
その他の装備		椅子、キーボードカバー/譜面板、MIDIイン/アウト端子、ヘッドフォンジャック、 AUXアウト端子(RCA；モノラル)
オプション		MDR-4 ミュージック ディスク レコーダー、HPE-170ステレオヘッドフォン
サウンドシステム	アンプ	30W
	スピーカー	[2ウェイ]ウーファー20cmx1、ツイーター5cmx1、モニタースピーカーx2
定格電圧・消費電力・周波数・出力インピーダンス		100V、32W、50 / 60Hz、出力(550)
サイズ		[本体]間口1,077mm、奥行460.5mm、高さ895mm(キーボードカバーを立てた時1,131mm)[椅子]間口595mm、奥行295mm、高さ555mm
重量		[本体]48kg [椅子]6.4kg

仕様および外観は、改良のため、予告無く変更することがあります。

エレクトーン用語集

MIDI(ミディ)

Musical Instrument Digital Interface(ミュージカルインストゥルメントデジタルインターフェース)の略。電子楽器などの交信用に決められた世界統一の規格のこと。MIDI端子を他のMIDI規格の製品と接続して、さまざまなコントロールが出来る。

ウ

上鍵盤ボイス

上鍵盤で発音できる音色。上/下鍵盤ボイス合わせて最大10音発音の複音。

エ

エクスペッション ペダル

演奏中に右足を使って音量を調節できるペダル。

エフェクト

音色を変化させる効果のこと。EL-17には、リバーブやサステインがある。

オ

音群

EL-17のボイス(音色)は、原則として4つの音群に分かれる。上鍵盤は上鍵盤ボイス、リードボイスの2つの音群、下鍵盤は下鍵盤ボイス、ペダル鍵盤はペダルボイスと、それぞれ3つの鍵盤に対応している。

キ

キーボード パーカッション

下鍵盤またはペダル鍵盤で、いろいろな打楽器の音を発音することができる機能。

基本レジストレーション

幅広い音楽ジャンルの中の代表的な音色設定で、5種類のレジストレーションがある。

コズミック

上鍵盤ボイスと、下鍵盤ボイスにあるボタンのひとつで、シンセサイザー風の音など自然楽器にはない電子的な音色を選ぶときに使う。

サ

サステイン

音に余韻を付けるエフェクト。

シ

下鍵盤ボイス

下鍵盤で発音できる音色。上/下鍵盤ボイス合わせて最大10音発音の複音。

タ

タッチトーン

鍵盤を弾く強さによって、音量や音色を変化させる機能。タッチトーンには、イニシャルタッチとアフタータッチの2種類がある。イニシャルタッチは、音の立ち上がりの音量/音色を変化させ、アフタータッチは、立ち上がった後の音量/音色をコントロールする。

ト

同時発音数

一度に鍵盤を押えたときに発音できる音数の最大値。(上/下鍵盤ボイス合わせて最大10音)

トゥッティ

上鍵盤ボイスと下鍵盤ボイスにある音色ボタンのひとつ。弦楽器や管楽器で編成されたオーケストラタイプの音色のこと。

トゥーロー

リードボイスとペダルボイスにある音色ボタンのひとつ。リードボイスまたはペダルボイスを下鍵盤で発音することができる。

ヘ

ペダルボイス

ペダル鍵盤で発音できるベース音色。単音。

リードボイス

上鍵盤で発音できるリード演奏用の音色。単音。

リバーブ

音に残響感を付け、ホールなどで演奏しているような響きにするエフェクト。

レ

レジストレーション

上/下/ペダル鍵盤の音色、リズムやエフェクトなどの組み合わせのこと。

索引

ア

アウト (MIDI) 2 1
アフタータッチ 1 5

イ

イニシャルタッチ 1 5

ウ

上鍵盤ボイス 1 3

エ

エクスプレッション ペダル 4
エフェクト 1 5
エレクトーン用語集 2 8

オ

音群 13, 14
音色 1 3
音量 1 4

キ

キーボードパーカッション 1 8
基本レジストレーション 5, 6

サ

サステイン 1 5

シ

下鍵盤ボイス 1 2
シンクrostart 1 6
出力端子 3

ス

スタート 1 6
ストップ 5, 12

タ

タッチトーン 1 5

テ

電源 4
テンポダイヤル 12, 17
テンポ 1 7

ト

同時発音数 2 8
トゥーローワー 1 4

ハ

バー/ビート 1 7
パワー スイッチ 4

ヒ

ビート 1 7

ヘ

ペダルボイス 1 2
ヘッドフォン 3

ホ

ボイス 1 3
ボリューム (ボイス) 14, 18
ボリューム (リズム) 1 6

ミ

ミディ (MIDI) 2 0
ミュージックディスクレコーダー
(MDR) 2 2
MIDI (ミディ)端子 2 0

メ

メトロノーム 1 6

リ

リードボイス 1 3
リズム 1 6
リバーブ 1 5

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのヤマハ電気音響製品サービス拠点にご連絡ください。

保証書

このエレクトーンには保証書がついています。
保証書は納入調整サービスの際に所定事項を記入して発行いたしますので、内容をご確認のうえ、大切に保管してください。

保証期間

お買い上げ日から1年間です。

保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

修理のご依頼

まず本書の「故障かな?と思ったら」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へ修理をお申し付けください。

製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

ヤマハ電気音響製品サービス拠点（修理受付および修理品お持込み窓口）

北海道サービスセンター	〒064	札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内	TEL.(011)513-5036
仙台サービスセンター	〒983	仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F	TEL.(022)236-0249
首都圏サービスセンター	〒211	川崎市中原区木月1184	TEL.(044)434-3100
東京サービスステーション*	〒108	東京都港区高輪2-17-11	TEL.(03)5488-6625
<small>(*お持ち込み修理のみお取扱い)</small>			
浜松サービスセンター	〒435	浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内	TEL.(053)465-6711
名古屋サービスセンター	〒454	名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F	TEL.(052)652-2230
大阪サービスセンター	〒565	吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内	TEL.(06)877-5262
四国サービスステーション	〒760	高松市丸亀町8-7 ヤマハ(株)高松店内	TEL.(0878)22-3045
広島サービスセンター	〒731-0114		広島市安佐南区西原6-14
九州サービスセンター	〒812	福岡市博多区博多駅前2-11-4	TEL.(092)472-2134
[本社]			
カスタマーサービス部	〒435	浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内	TEL.(053)465-1158

北海道支店/営業課	〒064	札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内	TEL.(011)512-1550
仙台支店/営業課	〒980	仙台市青葉区大町2-2-10 住友生命青葉通りビル	TEL.(022)222-6149
東京支店/鍵盤推進課	〒108	東京都港区高輪2丁目17-11	TEL.(03)5488-5442
関東支店/営業推進課	〒108	東京都港区高輪2丁目17-11	TEL.(03)5488-1680
名古屋支店/鍵盤推進課	〒460	名古屋市中区錦1-18-28	TEL.(052)201-5140
大阪支店/鍵盤推進課	〒542	大阪市中央区南船場3-12-9 心齋橋プラザビル東館	TEL.(06)252-7541
広島支店/営業課	〒730	広島市中区紙屋町1-1-18	TEL.(082)244-3748
九州支店/営業課	〒812	福岡市博多区博多駅前2-11-4	TEL.(092)472-2152
電子楽器営業部/クラビノーバ営業課	〒430	浜松市中沢町10-1	TEL.(053)460-3275

*住所および電話番号は変更になる場合があります。